

もみじ

-広島県山岳・スポーツクライミング連盟会報-



一般社団法人 広島県山岳・スポーツクライミング連盟

〒733-0011 広島市西区横川町2丁目4-17

電話・FAX (082) 296-5597

E-Mail : hgakuren@lime.ocn.ne.jp

URL : <http://hiroshima-gakuren.or.jp>

郵便振替口座 01380-6-37958

題字デザイン 今村みずほ

編集 西部伸也

本号内容

1. 第4回写真展（9/26～10/1 NHKギャラリー）報告
2. 大山キャリーアップボランティア（9/17）報告
3. クライミングスクール（10/29 三倉岳）報告
4. 山岳コチ1養成講習会（10/21～22 三倉岳）報告
5. 全員協議会（9/25 西区民文化センター）報告
6. 岳連短信（寄贈御礼、11～12月の行事予定）

1. 第4回写真展報告

（事務局 西部 伸也）

開催期日 2023年9月26日（火）～10月1日（日）

訪問者数 176人（1日平均29.3人）

（第3回：170人 第2回：181人 第1回：305人）

アンケート提出数70、内訳は連盟会員14・一般及び
不明56

受付当番（AM：9:00～13:00 PM：13:00～17:30）

9/26	AM 豊田・福永	PM 豊田・宮本
9/27	AM 奥	PM 奥・江種
9/28	AM 笹田	PM 福永
9/29	AM 豊田	PM 福永
9/30	AM 西部	PM 西部
10/1	AM 後藤・寺田	PM 小方・柏原
豊田・福永 各3回、奥・西部 各2回、宮本・江種・ 笹田・後藤・寺田・小方・柏原 各1回、延べ17回		
当番1回につき500円の交通費補助		

会計報告

収入 25,500円（出展料20人分、山田会長カンパ）

支出 17,116円（花代、印刷用紙、芳名帳、受付当番

交通費補助、プリンターインク）

残金 8,384円→連盟会計へ

アンケート感想文

（連盟会員）アンケート提出数14

- なかなか見ることのできない景色や、思い出の山を見て、心躍り、心癒されました。毎年楽しみにしています（にっこり）
- 海外よりやっぱり国内の山が良い
- 原則3年となっているが、若い時に撮影し、大事にしている写真を皆さんに見てもらうのも、良いのではないか
- どれも良かったです！

（一般・不明）アンケート提出数56

- 自然は素晴らしいと改めて感じました
- 別世界に出来て元気になりました
- 開催回数を増やしてほしい
- とても素晴らしい写真ばかりです。美しいので感激しました
- 楽しそう!!
- どの写真もすばらしい写真でした。心の安らぎを与えて下さり、有難うございました。
- 山に登りたい気持ちをかきたてる作品ばかり。本当にどの作品も1点1点が実際に面白く、自然との遊び、風景、もっともっと楽しい生き方を求めてくれました。案内して頂きありがとうございます。皆様のご活躍、見つめています♡
- 素晴らしい写真の数々とても感動しました。自然の山々など見ているだけでいやされました。ありがとうございます♡（にっこり）
- すごいです

- みんなよく撮っていました。3枚選ぶというのは優劣をつけるみたいでできませんでした。
- 昨年に続き今年も作品展に来られてうれしく思っています。皆さんの方作を拝見し、ひととき心がいやされました。ありがとうございます。美しい自然が続きますよう、私一人でもできることはしてみようと思っています。
- ステキな写真でした。貴女のウデが良いのか！フィルムのせいでしょうか？
- 自然を愛していらっしゃる心がどの写真からも溢れています。これからもみなさまお元気で
- 普及活動、ありがとうございます！
- 平和をイメージして選びました。

特に好評だった作品の紹介

（末尾の数字はアンケートの票数）



『BCとアマ・ダブラム』大田由孝（日本山岳会広島支部）11



『ぶなの森』岡谷良信（個人会員）11



『松江 中海からの水鏡』岡本良治（広島山岳会）28



『岩稜』福永やす子（広島山岳会）17



『霸王山 ③』松島宏（広島登山研究所）11

2. 大山キャリーアップボランティア報告

（参与 福永 やす子）

『第4回大山キャリーアップボランティアに参加して』

山岳連盟事務局から転送メールで大山のボランティアを知り参加申し込みをしました。以前、汚泥のキャリーダウンに申し込んだ時は希望者が多く参加出来ず、2015年の第2回桟木のキャリーアップでは山の日のイベントを兼ねての企画に、雪山で一緒にいたKさんを誘って参加したので今回も興味がありました。

早朝、8時の受付なので前日から出発。以前は下山キャンプ場を利用したが、現在は使用中止となっているのと、年を重ねて、安価で宿泊出来る素泊りのゲストハウス「寿庵」に予約してゆっくり前泊し当日を迎えるました。（2023.9.17）

当日は秋晴れ、大山寺第4駐車場で受付を済ませ、ゼッケンと桟木（大きさ30×60×1,000mm、重さ800g/1本）を受け取る。小学生は1本から健脚者は持てるだけ受け取っていた。我々は2本ザックに括り付けて出発しました。川沿いの駐車場で一木一石運動の石をザックやポケットに入れて改めて出発する。夏道登山道への登りでオドリコソウの花に見送られて足を進める。夏道登山道では一般の登山者、桟木を背負った方々が進む。ブナ林の登山道は以前と違って段差が少なく整備され歩きやすくなっていました。

六合目で甘い物を口に含んで喉を潤す。日曜日の為人が多く狭い場所では渋滞した。尾根に出ると風が強くなり九合目過ぎから風は更に強く背負った桟木に強風が当たり足元を確保しながら進んでいると米子在住の昔の仕事仲間が夫婦で待っていてくれて久しぶりの再会。元気をもらって山頂へ。

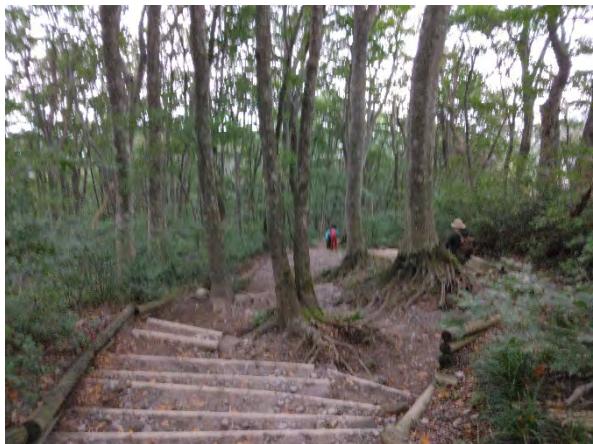
山頂小屋で桟木を渡して昼食を済ませ山頂で一休み。鳥取県主催の中国五県の自然保護研修会（5.21）での山頂の整備を思い出しながら既に擦れた木道の整備の一助になる事を祈りつつ下山しました。

企業グループの参加の中にも岳連仲間の姿も見られた。参加して感じた事だが、環境省と鳥取県、地元大山町がタッグを組んで安全に行動出来るようにゼッケンの最終チェックもされて万全な体制で行われていた。今後も、ボランティア活動に参加協力しまし

よう！

美しい大山を永久に維持するために・・・。





3. クライミングスクール報告

(指導部長 森本 覚)

第7回 10/29(日)

山域：三倉岳、中ノ岳とBコース8合目

人数：23名（スタッフ含）

受講生6名は2パーティで中ノ岳マルチピッチクライミングをおこない、別の受講生8名はひとけたエリアでトップロープでバックアップした状態でのリードクライミングとビレイの講習をおこないました。（指導部 塩田 徹）

【感想文】

（受講生 吉部 恵理）

スクールも残り2回。集大成となる「中ノ岳マルチピッチルート」を体験する日が来ました。思えば一昨年はコロナ禍で、昨年は山頂付近にスズメバチの巣で出来ず、今年やっと。

外部事情もありますが、最終目標だと思っていたマルチに臨める域にやっと辿り付いたのかと思うと感慨深いものがあります。手厚いご指導に感謝いたします。

中ノ岳マルチは今年に入りスクール外で数回体験しており、スタート地点の岩から反対側の岩に移るところが最高に怖いけれど、それ以外は問題ないかと軽く考えていましたが…大勘違いしていました。それまでは初心者向けに難関箇所を全て迂回していたから行けたということ。ルートによって難易度が変わるということを知りました。

私たちの班の1ピッチめは岩に乗り移るところか

らスタートではなく、右側の5.8をアプローチシューズで登りました。渋滞を避けるため2班違うルートを設定されていましたが、4、5ピッチ目を終えて合流すると、たちまち順番待ちで大休憩。秋晴れの下、山々や遠くは瀬戸内海の（四国も見えていたかもしれない？）大展望が爽快で、これがマルチの醍醐味なんだろう。三倉岳が近くにあって本当によかったですと思いました。上空から大きな羽音がする方向を見上げるとSチーフの偵察？ドローンがホバリング中。待っている間、スタッフKさんの「6mチムニーを是非体験してほしい」という言葉を不安と期待感を持って聞きました。

貴重なチムニ一体験になりました。腰回りのものをスリングに全て下げて足下に垂らすと確かに邪魔になりません。クラックに入り手腕や足で岩を押さえ、息切れしながら少しづつ上がって無事通過しました。本日の核心部は過ぎたと思ったのですが、続きが待っていました。心身のパワー枯渇後、短いチムニーは出だしで困窮。山頂下クラックのトラバースはハンドジャムが出来ず。ハンドジャムは決まった記憶がなく今後の課題だと認識しました。

また今回私は60mロープの中間にいましたが、終了点で全員揃うとロープが絡まってしまうこともあります。引き上げ方法も‘ムンター’だけでなく、‘確保器(ATC)’や‘腰がらみ’と状況を見て判断すること。実践を通してスタッフの方々からたくさんのこと学びました。

クライミングを続けて行くなら、次の目標はサポートなしで出来るようになることかと思います。登攀力をつけることも大事ですが、確実でスピーディーなロープワーク・判断力等まだ出来ていないことだらけ。クライミングは難しいから面白く奥深く達成感があるのだと思います。卒業後もここで会った皆さんと三倉や天応でお会いする機会があれば嬉しく思いますが、その前に最終回頑張りましょう。

（受講生 長井 優典）

今回の講習は、マルチピッチ組とシングルルート組に分かれて行われました。私はシングルルート組

でした。今までの三倉岳での講習で、最もアプローチが遠い八合目付近にあるルートに向かいました。恥ずかしながら、毎回アプローチだけでもへとへとになってしまいます。ルートに到着して、クライミングシューズを忘れたことに気づいた時には、小さな絶望を感じました。急いで下山してまたルートに戻ってきたときには、足が生まれたての小鹿のように震えていました。

今回のルートは、グレードが5.6～5.9で、計5本に挑戦しました。5.9のグレードですら、まったく歯が立ちません。5.10以上のルートは私にとって異次元の世界です。3人1組（クライマー、リードのビレイヤー、万が一に備えるトップロープのビレイヤー）でグループに分かれました。講師の塩田先生が、トップロープをかけていくために、お手本の登りを見せてくれます。ひょいひょい登っていかれるので、下から見ると簡単そうに見えるのですが、自分がいくと全然できませんでした。

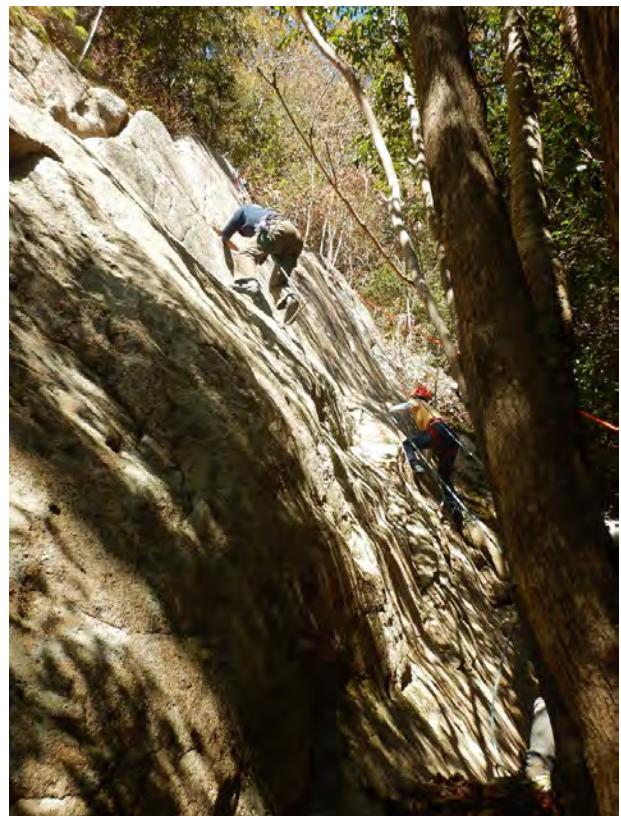
途中、リードクライミングの逆クリップやZクリップの危険性などについて説明がありました。曖昧な記憶を辿ると、何度か説明していただいている内容で、ようやく理解できました。説明の後のクライミングで、逆クリップをしそうになりましたが、気づいて正しくロープをクリップにかけることができました。ただ、その間、腕の筋肉がプルプルして消耗していました。もっと、スムーズに動作を行えるようにならなければと強く思いました。

ビレイヤーとしての技術向上も課題です。リードクライミングのビレイは、どれだけロープを出せばよいのか、クライマーから情報を読み取りながら判断しなければなりません。安全確保しつつも、クライミングの邪魔をしないようにどの程度ロープを出していくのか、まだまだ感覚をつかめています。

今年度のクライミング講習は、次回でいよいよ最後となります。全員がマルチピッチに挑みます。マルチピッチでのビレイをするため、今回のクライミング講習の間にも、ロープワークの復習をしました。手際良くできるよう（足を引っ張らないよう）練習しておきます。毎回、スタッフの皆様の根気強く

丁寧なご指導に感謝申し上げます。

（写真提供 塩田）
ひとけたエリア



中の岳マルチ



4. 山岳コーチ1養成講習会報告

(指導部長 森本 覚、写真も)

「令和5年度日本スポーツ協会公認山岳コーチ1養成講習会 無雪期講習会」

10月21日～22日に三倉岳で無積雪期の実技講習と実技検定を行いました。

実施内容は、①無雪期の歩行 ②無雪期の生活技術 ③悪場の通過技術④ 無雪期の遭難対策 ⑤ナビゲーション技術 の公認山岳コーチ関係規程通り合計5科目の講習と実技指導検定を無事終える事ができました。

この後のスケジュールとしては、1月20日～21日に比婆山で積雪期の実技講習と実技検定及び理論検定を予定しております。

全員合格を目指して頑張って頂きたいと思っています。



無雪期の歩行講習



無雪期の生活技術講習



ナビゲーション技術講習



悪場の通過講習

5. 全員協議会報告

（事務局 西部 伸也）

日時 10月25日（水）19:00～20:30

場所 広島市西区民文化センター

出席者 山田・横山・福永（広島山岳会）、豊田（自然と文学愛好会広島）、杉本（マツダ親和会山岳部）、荻田（安藤縦走会）、近藤（JAC 広島支部）、尾道・西部（タンネンクラブ）、村井・松井（県庁山の会）、後藤（広島大学山の会）、宮本（広島三峰会）、森本（FCC）、塩田（個人会員）、楨田（広島山稜会） 計16名

会議内容

(1)連盟の財務状況と会費見直し（豊田理事長）

前年度は160万円の財産減（20年間での目減りは300万円だが）→従来の加盟団体会費を見直して、会員数×1000円とする案を検討中

(2)新イベント協議会について（村井副会長）

計測業務の外注だけでも40～50万円の支出となり、比婆山スカイランの継続は難しい状況。

恐羅漢トレイルに参加するのはどうかとい意見も

各部報告

【指導部】 クライミングスクールは14名受講で予定通り進行中、登山教室は休止中、山岳コーチI養成講習16名、救急法研修会35名。来年度も各種スクール・講習会/研修会を行うが、登山教室に代わる新たな講習会を行ってみたい（登攀・沢登り・ロープワークなど）



無雪期の遭難対策講習

【普及部】自然保護指導員研修を12月県民ハイキングに合わせて行う。来年度は県民の森登山道整備、再来年度は広島で中国五県の研修会

【S C部】鹿児島国体には成年男子と少年女子が出場（成年B35位・L17位、少女B11位・L9位）。10/21にCEROでベルコンプ第3戦（収支はトントン）、第4戦はピュアグリーンで。10/29 福山でパラクライミングジャパンシリーズ

【国際部】9/9 服部文祥さんを講師として山岳SCセミナーを実施し 52名参加だが 8万円の赤字。韓国との交流再開の見通しは立たず

【県東部】連盟行事が「西高東低」となっている

JMCA報告 9700万円の赤字をどうするかというのが大問題

出席者からの質問/意見（事前提出も含む）

- 比婆スカの収支状況 一800人程度の参加があれば黒字は見込めるが
- 恐羅漢トレイルの運営会社が撤退するという噂は？ 一中心人物だった松岡さんの体調不良で難しい状況となっている
- 会費の会員数×1000円案は受け入れがたい。80周年記念誌発行による赤字が大きかったのでは？ 一前年度は給付金による赤字縮小があった。コピ一費の節約は検討する
- 会員数×1000円案は会員数が多い団体にとっては厳しい
- 新しい人が各部に入ってほしい
- 登山教室は発展的に解消。指導部に入って活動してもらいたい
- 会員数×1000円案だと収入を全部持っていくからてしまう
- 活動が停滞気味で小屋の維持が厳しい
- JACの本部では紙代で500万円節約している
- 会員数×1000円案は各会にとっては大変か。岳連からの見返りがあるかどうかが大事。指導者の育成強化とは？ 一JMCAの指導員制度
- 事務所経費が大きいが事務所は遭難対策本部としても必要
- 参加料割引などの岳連加盟メリットをもっとア

ピールすべき、店舗利用割引もあるといい

- 比婆スカは続けられないのか？
- 自然保護指導員を多くしたい、特に若い人
- 若い人を。人数が多い会の会費は段階を設けては？
- もっと単発的な講習会も増やしてもらいたい
- 事務局員を増やしてほしい
- 事務局経費を考えても会費値上げは必要なのでは？
- 16年前の会費収入は160万円だったが現在は半減している

6. 岳連短信

1. 寄贈御礼

10/20 三原山の会『筆影』No.524（11月号）

10/24 福山山岳会『会報』11月号

（10/16）広島やまびこ会『やまびこ』803・804（10月号・11月号）

（10/25）広島山稜会『峰通信』772（10月号）

10/23・30・11/8 『中信高校山岳部かわらばん』731・732・733

2. 11～12月の行事予定

11/18～19 恐羅漢登山道笹刈りボランティア

12/10 県民ハイキング（鈴ヶ峰）

12/23～24 第14回全国高校選抜S C選手権（埼玉県加須市）

編集部より

○この会報は、皆さんのが提出原稿を編集して発行しています。岳連行事・山の情報・行事参加の感想など気軽にお寄せください。寄稿の場合は所属、役職を記入下さい。編集の都合で一部手直しがあります。ご了承ください。

○会員団体で会報発行されたら岳連事務局まで恵下さい。随時紹介します。

○この会報はメール配信しています。配信ご希望の方は岳連事務局までメールアドレスをお知らせ下さい。